美方高校新聞

発行所
福井県立美方高等学校
新　聞　部
編集責任者
新　聞　部
印刷所
〈有〉鳥居印刷所

令和四年入学生から新制服導入

生徒のデザイン案集まる
我らが創る美方高校の新時代

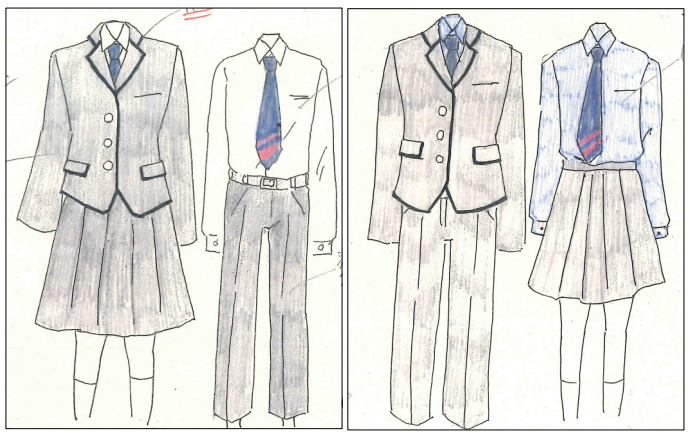
制服改革だ！美方高校は時代の波に乗ろうとしている。五十年前の開校以来ほぼ変わっていない制服が今、時代に合わせたジェンダーフリーの制服に変わる。これまでに保護者・生徒アンケートの実施、生徒からのデザイン案募集と、新制服に向けて着実に歩みを進めている。

十月に生徒会が新しい制服のデザイン案を募集したところ二十七作品の応募があった。選考は生徒会執行部による投票後、制服検討委員会で審査した。審査のポイントは▼ジェンダーフリー▼アンケートで人気だったブレザースタイル▼美方高校らしい青色▼清楚さ

教頭先生は「自分の代で着る制服ではないが考えてくれてありがとう。今と未来の美方高校生に期待している」と語った。最優秀賞に選ばれたのは、一一一田邉由衣さん、優秀賞は三一二畠中麻衣さん、審査員特別賞は二一四髙橋永遠さん、一一一清水祐花さん。最優秀賞の田邉さんにインタビューした。▼選ばれた感想は「びっくりしている。それと同時にすごく嬉しい」▼デザインのポイントは「色を紺色から黒へガラッと変えた。襟に黒い線を入れてスタイリッシュにした。夏のカッターシャツにはラインを入れて物足りなさを補っている」▼こだわりは「ジェンダーフリーを意識して男女区別ないデザインにし、スカートかズボンか選べるようにした。カッターシャツも白か水色を選べる。水色は男女どちらも着やすく清潔感があるから」▼美方高校らしさは「ネクタイの青で表現した」と、美方高校の制服の未来について熱く語ってくれた。

今後の予定は令和三年二月に業者を決定。生徒のデザイン案も参考にしながら検討を重ね七月に新デザイン決定。八月のオープンスクールで中学生にPRし、学校祭では展示する予定。令和四年入学生から新制服着用という見通しだ。

新制服への動きが本格的に始まった。真の意味での美方高校改革は外見だけでなく生徒自身にかかっている。制服をきっかけに、気持ちを新たにしてより良い学校にしていこう。



◇最優秀賞に選ばれた田邉さんのデザイン画◇
- 男女共通でスタイリッシュで知的な感じ
- ネクタイに変更。青色で美方高校らしさを表現
- シャツは白か水色から選択することができる

部活動紹介

共に成長し共に戦う

駅伝　男女共二位も粘り強さ見せる

十一月一日、鯖江市東公園陸上競技場にて県高校駅伝が行われた。今年は各種大会が中止となり、三年生にとっては特に思い入れの強い大会となった。

男子は一区エースの平林清澄が気比に約三十秒差で食らい付く執念の走りを見せた。二区、三区と二位をキープするも気比との差が徐々に広がる。四区では廣瀬啓伍が区間賞の力走で一位との差を縮めた。五区と六区で我慢の走り。最終七区の東晃成は粘り強く追い上げ区間賞を獲った。結果は二時間十分十一秒で気比との差は一分だった。平林さんは最後の大会で負けたことをとても悔しがった。三年間を振り返って「一年時は強い先輩方に引っ張ってもらい、二年時は自分にも実力がつき都大路を走れた。後輩には今後主体となって都大路を目差してほしい」と語った。

女子は一区の佐藤鳳羽と二区の髙原さくらが区間賞を獲り二位に三十八秒の差をつけて三区に渡した。しかしその後は鯖江に逆転を許し一時間二十分一秒の二位で終わった。髙原さんは「自分の力は出し切ったが、結果としては悔しさの残る大会になってしまった。大学では練習や環境が変わるが高校で学んだことを生かして、また自分に必要なものを見つけて頑張りたい」と語った。

一区平林　思いを込めた走り

一区佐藤　激しい首位争い

卓球　男女の絆で立ち向かう

顧問の堀先生は「大会を開催していただいた関係者に感謝したい。今大会は良いコンディションで臨めなかったと思うがやりきってくれた」と選手を労った。

卓球部は男子六名、女子七名、マネージャー一名で男女一緒に活動している。平日は放課後に二時間、休日は午前中三時間、基礎練習やゲーム練習、個人の課題練習などに励む。今回はキャプテンの大野馨大朗さんと髙橋永遠さんにお話を聞いた。部活動の雰囲気について大野さんは「部員同士とても仲が良い。一年生も先輩に萎縮することなく伸び伸びしている」男女共に練習するメリットについて髙橋さんは「いろんなパターンの回転やサーブを出し合うことで試合での対応力がつく」という。顧問の出口先生は「キャプテンを中心に目標に向かって励んでいる。練習の意図や雰囲気づくりについて選手の様子を見て声をかけている」とのこと。

十一月十三～十五日、県営体育館で行われた新人大会の結果は男子団体ベスト十六、女子団体ベスト八であった。髙橋さんは「勝てていた相手に負けてしまった。最初から集中し勝ちに行く強い気持ちが必要」大野さんは「県のトップの試合が見れ、春季総体に向けて目標が定まった」と語った。出口先生は「チャンスがあった分プレーが固くなった。次は目標を力に変えて戦ってほしい」と振り返った。卓球部の一番の強みは「絆」これからも男女仲良く頑張っていく。

男女共に練習に励む

感謝の気持ちをハガキに

絵はがきに思いをのせる

十一月十二日、「一期一笑のご縁ハガキ」体験が生活情報科一・三年生を対象に行われた。生徒たちは筆ペンを使って家族や担任に日頃の感謝を込めて書いていた。講師の玉城麻衣さんは「ご縁はがき」を独自に考案し世界にただ一人の講師として各地で仕事をしている。「一期一会を大切にしてほしい」と生徒に呼びかけた。企画者である三方五湖青年会議所の上野山達也さんは「玉城さんの熱意と優しさを知ってほしい、そして家族や友人に対する感謝の気持ちに気づいてほしい」とプロジェクトの開催理由を述べた。生徒の取り組みを見て「楽しさが伝わってきて感動した。真面目で真剣に取り組む姿勢を頼もしく感じた。高校生の可能性は無限だから自分の好きなことに挑戦してほしい」と話した。

【生徒の感想】

▼字を詰めて書くことがバランスをとるコツと教えてもらったが、やってみると難しかった▼こういう体験は初めてだったのでとても楽しかった▼筆ペンで太く書いたり、細く書いたり変化をつけるのが難しかった。